

## 時事文翻訳添削ノートから

私は毎年授業で時事文翻訳の添削を行っています。翻訳に挑む学生さんたちに具体的な事例に沿って役に立つ情報をご紹介します。

### 情報 5

#### “和” “同” “与” → 「AはBと」か「AとBは」か

介詞（前置詞）や連詞（接続詞）に用いられる語には注意が必要です。話し言葉では“跟”や“和”をよく用いますが、“跟”は話し言葉専用で、しかも介詞としての用法が圧倒的です。これに呼応するのが書き言葉の“同”で、こちらは書き言葉専用ですが、やはり介詞としての用法が圧倒的です。

これに対し“和”と“与”は介詞としても連詞としてもよく使われますが、“与”が書き言葉専用なのに対し、“和”は書き言葉にも話し言葉にもよく使われる両刀使いであるところが特徴です。

修辭的に同じ語を多用することを嫌う傾向が強い書き言葉では、“和” “同” “与” がとっかえひっかえ使われますが、使用上のプライオリティもあり、注意が必要です。また、“与”は副詞の“相”と呼応して、よく“与～相V”の形で使われます。

例：“与～相背离”「～とは相反する」

なお、書き言葉ではこのほかに連詞専用で“及”もよく使われます。